

## 4. 資源管理体制推進事業(アマダイ)

舛田大作・幟川亜希子\*

対馬周辺海域におけるアマダイ延縄及び立縄漁業では、平成22年度から資源回復計画に基づき漁獲努力量の削減措置等を実施している。本事業では、長崎県資源管理指針の見直しの検討等に必要となる科学的データの収集を目的として調査を行った。

### I. 漁獲実態調査

#### 方法

対馬標本漁協における平成29年1月～12月のアマダイ銘柄別漁獲統計を整理した。

#### 結果

平成29年の対馬標本漁協の月別漁獲量をみると、6月が約9トンで最も多く、その他では3～5月、7～9月、11月に5トンを上回る漁獲量があった。

銘柄別に見ると銘柄「特」が全体の約1割、銘柄「大」と銘柄「中」が約3割、銘柄「小」が約2割を占めており、銘柄「豆」および「豆豆」は少なかった(図1)。

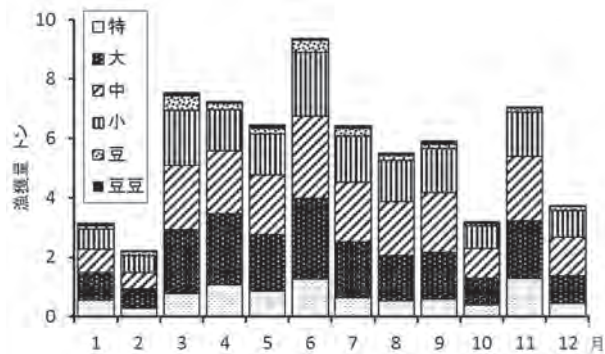


図1 標本漁協におけるアマダイの月別漁獲量

### II. 資源状態の評価

#### 方法

対馬標本漁協の平成29年3月～平成30年2月における銘柄別漁獲データと生物統計調査で得られた銘柄別全長組成から、標本漁協における漁獲物の全長組成を推定した。耳石の年齢査定結果から四季毎(春季3～

5月, 夏季6～8月, 秋季9～11月, 冬季12～2月)に作成したAge-Length-Keyを用いて、全長組成データを年齢分解した。

また、平成11年～平成29年度において年漁獲尾数と操業日数のデータを集計して、年別のCPUEを計算した。これらの年齢組成とCPUEのデータを用いて、チューニングVPA解析により、平成11年からの資源量指数の経年変化を推計した。

#### 結果

漁獲努力量は、平成11年以降減少傾向で、平成29年の年間操業隻数は1,796であった。資源量指数は、増減を繰り返し、平成29年は0.97となった(図3)。

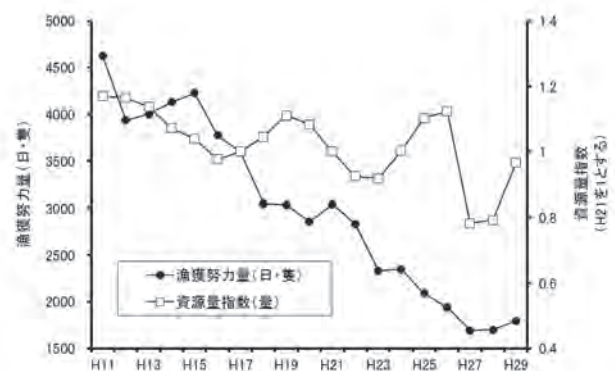


図2 対馬海区におけるアマダイ資源量指数  
漁獲努力量

#### まとめ

対馬海区アマダイ資源回復計画では、平成21年の資源水準を平成31年まで維持することを目標としている。

平成21年を1とする資源量指数は、平成25から26年にかけて1以上で推移したが、平成27から28年には0.8前後に減少し、平成29年は0.97と再び増加している。

(担当:舛田)

\*対馬水産業普及指導センター